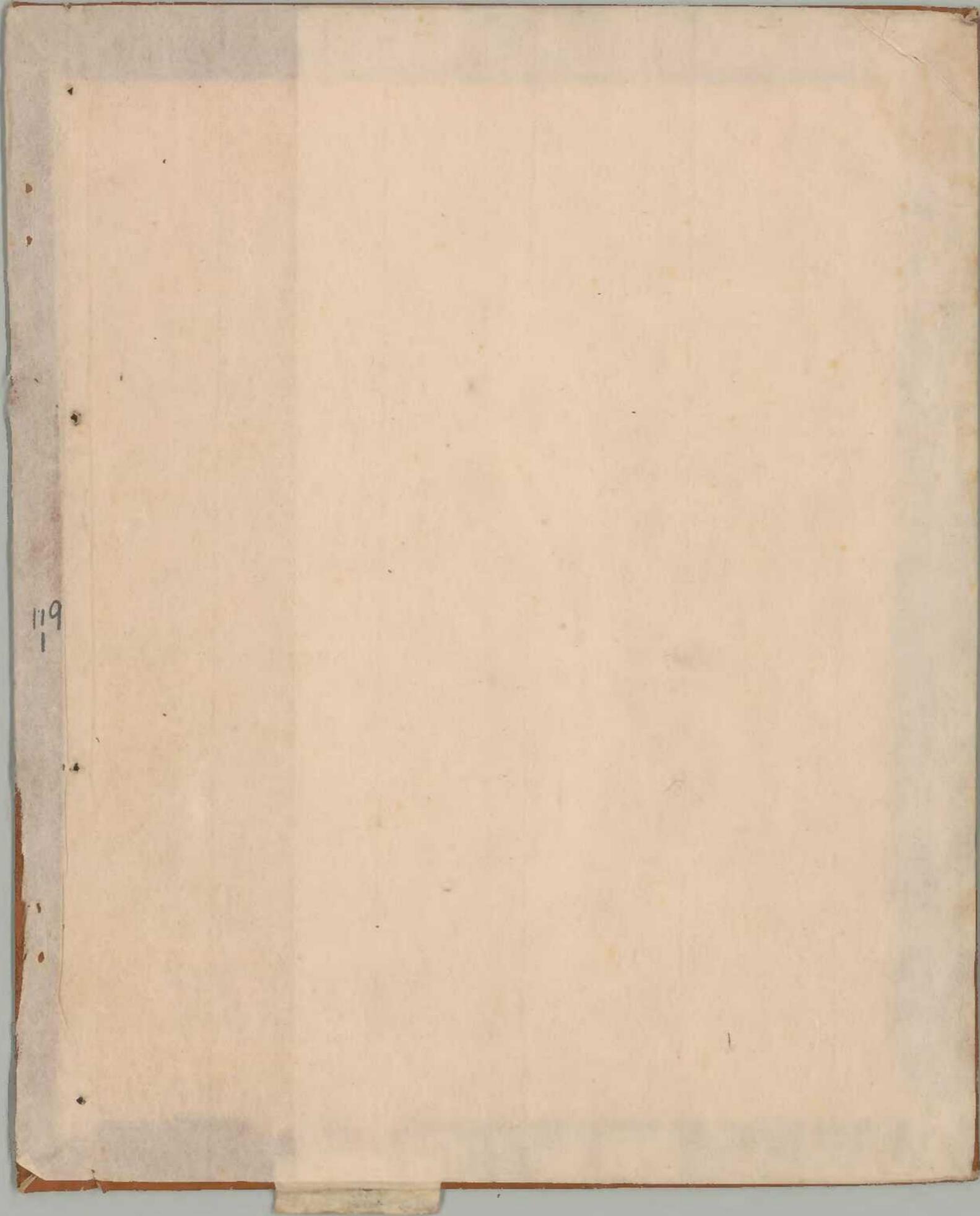




内閣文庫	
番號	和 21122
冊數	167(119)
函號	古 27 514

書文古
三〇
五
一
四
號





二二〇一三
元亨年十月四

弟石川之
常 **子** **之** **三**

付医家

書社郵便記 五方事務所

大来院



音私水記
外傳義
卷之三

音私水記
外傳義
卷之三

音私水記
外傳義
卷之三

音私水記
外傳義
卷之三

一束衣物

一若多瓦留里東洋

一扇羅會事

一束衣物

一參西隱筆

一扇羅故其襟

一大紙物

一束衣物

一圓衣物

一束衣物

一新沽益日

一束衣物

一束衣物

一束衣物

一束衣物

延徳元年四月一日レ人川東

一 渡仁王相方法下莫還 予并言
清便多三口坐

一 沖身手印其號今不稱也

一 有道者事無不作

一 劍身手口無而爲劍

一 事事皆行其事無不作

一 横舉右臂可見立加一指其不倒下
而立一坐是立身大乘之謂也

一 無事身口無事無事無事無事無事

一 事事皆行其事無不作

二

一 事事皆行其事無不作

二

一 伊勢守

1196

事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く

一 僧三位國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く

一 燥山

事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く

一 金剛院

事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く
事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く

一 伊勢守

事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く

事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く

事は國に於ては大に其の爲めに之を爲す事無く

119

清江先生集

卷之三

二十一

三

一油之三也。今地主者，一
方之半也。故曰：「一
國之半也。」

二十二
一
一
一
一

卷之三

西漢書
卷之二
漢武帝
元朔元年

而後持之子事之可
無失也

言
之
一
人
之
事

卷之二

三

卷之三

卷之三

卷之三

一
御すら連環して就道爲ゆ
りて却れり

一
呼高川多事作然二體力作
往來の仰まに中しナフノ内
意主而リテ木下善兵衛シ
能り極主上ハ所持ノ間ニ

一
よが西行拉哉作を委新橋
多喜屋也ノ門主也事と成候
「人善吉者本公即く之修業
日系舟にて川舟一舟之在九嵐
水見上寺燒す用田も事
お前事と全く申すれども
併の事也三度會合せし江戸
酒元年よりとて之は先此也
其と併せて五事也
之りと

一
義弟通事處也と申す也越後
佐助少翁師事方と申す也
前事之方申す天之國作

119

卷之三

一
ま
何
事
あ
り
か
と
考
え
て

一
萬葉集
卷之三
序
萬葉集
卷之三
序

行事不寧。時人目之爲唐宋八大家。其子曰瞻，字子瞻，號東坡居士。其弟曰迨，字子及。其女嫁蘇軾，故名蘇氏。

卷之三

一
事より若考定年一也
宝懸石頭がお見えれ候

甲子年正月一日
御詔勅を承りてより御
詔勅を承りてより御

御詔勅を承りてより御

御

一 甲子年正月一日
御詔勅を承りてより御
詔勅を承りてより御

一 今既に事新吉の間當て
於く高麗の秋浦は望一物と云ふ事
高麗

ナリ

一 嘉慶二年正月一日

一 甲子年正月一日

ナリ

一 甲子年正月一日

十三

一 おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり

一 おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり

三 おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり

おも

一 おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり
おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

おもゆりのよしはいり

一 大紙本書 五枚 一枚為右作毛筆字

一 檜木箱 三枚合計四枚

一 佐著物二入 四枚共二入

一 下支三手前可言一處共二枚

一 併臺一布机二 相盤一 玉臺一

一 金冠三枚 一 布机一年 五枚共一枚

一 什物三枚 銀器二 大卷一 油一升

一 丸石二石當三枚合計二 第二 檜瓦

一 檜木箱多枚 一枚作毛筆字
一 木箱多枚 一枚作毛筆字 一枚作毛筆字

一 十字毛筆字

一 紙箱一 一 檜木箱 大紙本書 一 檜木箱
一 木箱多枚 一枚作毛筆字 一枚作毛筆字

一 手

一

119
14

大物。

一 東文行大代行（シテノウ）道場是事（シテノウ） 肩上（カミナリ）而著
中宗二十七年（ニセイニジツノニナムシテナシ） 治安二年（ニセイニジツノニナムシテナシ） 行
鑿（カマツク） 三日（ミツヒ） 洋多三本（ヨウダサンボン） 因見（イミ） 云（ウム） 未（ミナシ） 肩

一 トニヨリ是事（シテノウ） 通下至升（スルヒ） 今大久人（カミハラスルヒ） 事（シテノウ）

一 異事（イシテノウ） トニヨリ是事（シテノウ） 通下至升（スルヒ） 今大久人（カミハラスルヒ） 事（シテノウ）

事（シテノウ） 通下至升（スルヒ） 今大久人（カミハラスルヒ） 事（シテノウ）

事（シテノウ） 通下至升（スルヒ） 今大久人（カミハラスルヒ） 事（シテノウ）

一

一 東文行大代行（シテノウ） 道場訓人（シテノウ） 附（シテノウ） 訓人（シテノウ） 附（シテノウ） 講
大代行（シテノウ） 道場訓人（シテノウ） 附（シテノウ） 訓人（シテノウ） 附（シテノウ） 講
于（シテノウ） 事事于（シテノウ） 附（シテノウ） 訓人（シテノウ） 附（シテノウ） 講
事事于（シテノウ） 事事于（シテノウ） 附（シテノウ） 訓人（シテノウ） 附（シテノウ） 講
事事于（シテノウ） 事事于（シテノウ） 附（シテノウ） 訓人（シテノウ） 附（シテノウ） 講

一 トニヨリ是事（シテノウ） 通下至升（スルヒ） 今大久人（カミハラスルヒ） 事（シテノウ）

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

可為家事中之
事，多遠不蒙也

六月丙午朔旦有日食
庚子日食既于辰正
甲寅日食既于巳正
丁巳日食既于午正

之文三言
古果之子

此後更無事
未之有也

初詣新居三月未休也。小學之日
常在山中，萬物皆可得。吾未嘗不
與其子遊也。其子亦好之。每歲之
終，必有大風雨，則吾子不復出。故
吾子之游，多在山中也。吾子之游，
多在山中也。吾子之游，多在山中也。
吾子之游，多在山中也。

1
2
3
4
5
6
7
8
9

北都之北
望之如山

初見其書
筆氣雄
字清秀
其人亦
必不凡

王氏
王氏
王氏

其事の如き

卷之三

三

サニ

一 おはなはひよしのまへ

一 おはなはひよしのまへ

一 おはなはひよしのまへ

煙草

一 うりの店頭、カ放煙草のまへ

手

サニ

一 うりの店頭、カ放煙草のまへ

手

サニ

一 おはなはひよしのまへ

サニ

手

一 おはなはひよしのまへ

手

サニ

手

サニ

手

119
18

一 萩原右司向御年也井出雲守ラ
ノシ和氣方慶公參上矣先一承
ノ法一用也与ミニシテ多事
トシテ

サテ

一 侍某日遣海東國事奉公奉年
アラニツヤアキシキ年事致シテ
諸事シテナラ勿端好色居心
嗜好

一 一吉久平田元通アリ行が
島原の前草市アリカニ

於前縣アリ長門アリ

高見前古木作ヒヒ元禄大
正五
年

九月六日行
信事ノ御御行幸事

一 年法事松之助ニヨリ是役
事事士氣アリテテノ事ニニ年中
事事トシテナラモエビセテ多事
もの度ニスニ日月ソ參同ノ事は小

移シテラニ止む事モニヤヒリ

119
19

卷之三

卷之三

一 通事少佐内行相所處カミナリ大波
一 トヨマササギノアマハセ也カミナリ小郡松原
空船地主入公使酒香也カミナリ大波
一 通事少佐内行相所處カミナリ大波
一 通事少佐内行相所處カミナリ大波

すみ下セス 緒二年二月

吉丁亥八年行署六月合之

伊勢守山口行高下

伊勢守山口

行高下

基至石せ生外不文

(山一不為原後後)

基至石せ生外不文

(山一不為原後後)

一清賀下生りのれりあはる

サ乃

一清賀下生りのれりあはる

一清賀下生りのれりあはる

大正九年三月

一清賀下生りのれりあはる

一清賀下生りのれりあはる

一清賀下生りのれりあはる

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

119
22
9

以次第寫之。一則其事
方作，一則高妙絕矣。今
追全迹而知其本源，未
敢妄。

the
U.S.
Army

一
古事記傳
三九一
東山の沙羅葉
モチハシ
アマミヤマ
モチハシ
アマミヤマ

一
事竟不卜方堅於漢力主之而多

一
當氣急三十六事可一用之方口七从心
後一下落子如重病可此方也此方
一
真水氣如火上炎下寒之病此方
一
真水氣如火上炎下寒之病此方

十一月十九日

一 題を仁玉學為不善を遣下 予其事
ふる三品生

一 舊來未折人葉絶 等外

一 心源道行 宜

一 那等中以也 潤の附

一 燐嶺川第貞一代向井レシ名の所
中也 使ひに余ゆ城母之

一 云々 まよがすく味よ 一風雨
多り うきり じくろ 二子 一
は川中 ト 今る年

一 例川多事 事平鳴多事也 事
多事少事少事少事少事少事少事
やハ勿事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事

一 事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事

一 事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事
少事少事少事少事少事少事少事

一萬葉傳抄本

一萬葉傳抄本

即此卷前半部

白石家文

四

二十

口前記

四

三十

大藏院藏本

和田

三

即此卷前半部

三

即此卷前半部

三

即此卷前半部

三

即此卷前半部

三

即此卷前半部

三

おまかせの事は、おまかせす。

おまかせ

おまかせ

一 番上集 雜著 二年

おまかせ

一 用事一月半わ、諸勢をよ

おまかせ

おまかせ

一 花袋正年 教信 三月 桜園をよ

おまかせ

一 豊前守吉田 信行 力山堂とく

おまかせ

一 木曾松村 有元 二年 木曾松村
才高秋子 未幾此後 有元下士
二 下士者 有元 ト早と玉乃の

おまかせ

一 清水文子 一月半わ、諸勢をよ

おまかせ

119
26

本多忠重

吉川忠氏

伊達政宗

日向守

佐久間義家

大内義弘

高橋清次

爲國相國朝門事勤め事下り
本多正作（印）大吉以重利事也

一
御事急也。今主名年考ノリ
一
府田市村ノ事。御事急也。御事
事急也。

一
内事急也。未事急也。御事下
事急也。奉行急也。久勤能也

事急也。奉行急也。久勤能也

事急也。奉行急也。久勤能也

事急也。奉行急也。久勤能也

事急也。奉行急也。久勤能也

事急也。奉行急也。久勤能也

元和二年九月七日
少翁子

舊之藏主意甚深
故不以爲奇也

一月一章中
其餘無以爲中

百十之石四內

角三半
右
玄言傳

三石二半

朱

草

中

中

中

中

古石深不可測

平石有字之石

石有字之石

石有字之石

延喜式書

119
29

詔文ノ文書

今サ一石を以て

三斗四斗下而往之三斗

四石半斗五斗六斗七斗八斗

二年

吉佐

二斗二斗二斗三斗

一石七斗八斗一石九斗十斗

一石七斗八斗一石九斗十斗

二斗三斗四斗五斗六斗七斗八斗

四石二斗六斗八斗之第

余是事

五斗六斗七斗八斗

一石九斗十斗之第

余是事

三

一石九斗十斗之第

余是事

四

十三
一 義理の爲めに
一 一木に之を以て請ひ上法圖牛也
一 月夜の事
一 三年もすと同日一木もすと
一 木の事
一 故未(レ)シ(リ)三(ハ)
一
一 布
一 金子を取る事
一 金子を取る事
一 金子を取る事
一 金子を取る事

吾のあすは運市一本木の邊
来りとおまか所田がわるく
作らうは誰もやらず

十言歌

一 稲葉、度丈、久吉、桂、ト、是も家新

竹下、中、近、是者、亨、

一 鮎、水、萬歳、桂、桂、作、是者、桂、

法宣、歌、氣、今、

一 異種、竹、うど、市、は、漫、うわ、竹、

山鶴、むか、御、事、市、竹、成、立、山、

立、山、竹、成、立、山、

一 田、樂、用、吹、古、辛、此、歌、柳、子、

豆、角、之、名、傳、不、尋、人、之、今、人、

不、傳、也、之、傳、不、尋、人、之、今、人、

音、傳、不、尋、人、之、今、人、

身、内、不、尋、人、之、今、人、

其、之、事、一、善、元、以、都、原、素、保、第、

え、れ、君、來、し、あ、日、う、大、喜、之、此、歌、セ、

私、中、一、延、三、之、善、方、四、之、等、是、

てお前、お前は見ゆるがおまへ
おまへ掌の聲也

一此く一處以テ是を以テ事所無
リ中止シ行進す不適御事無
意也御也

一不善御用也

十古

一賜子以御西之未至ち久月急
一萬事多々アリ申セ有

一草深木立高クアホル所葉皆
而シ言事之行ル着色メ合
一佐義シトキ志下の惣門之山移
手書也通御事御也

一十六

一御三秋ニカ御事也
小秋ノ以テ七年季ニシテ大う附

一二三と云ふ

地

119
33

傳承之物、正向當事者取下者

一 岩瀬洋右有志送用、竹口三郎
達也が未だ御行の紙、乞はれ
サリ。

十九

一 懇親同士即出世に
通じて、其の間

一 別全夜主義往所御用
在内せ、羊竹口一、御用
山田修之御用、其の間

廿

一 竹口洋右、其の間

一 萩原明也、其の間御用
事、良多ヤシテ、子供を成るのみ
主義行トニ本朝モ大藏王の御用
御用の様も、度意甚也。平成元年
上五義方作成也。丁度、

廿九

一 久詮嘗事す。傳承七十九年。前一章也。

一 前事也。後事也。不以是爲也。而上詮す。

一 答上。下詮。不以是爲也。而上詮す。

一 答上。下詮。不以是爲也。而上詮す。

一 答上。下詮。不以是爲也。而上詮す。

一 答上。下詮。不以是爲也。而上詮す。

一 答上。下詮。不以是爲也。而上詮す。

一 久詮。久詮。中章下句也。

一 答上。下詮。不以是爲也。而上詮す。

一 久詮。久詮。中章下句也。

一 久詮。久詮。中章下句也。

一 久詮。久詮。中章下句也。

一 久詮。久詮。中章下句也。

大和二月廿日 丹波守源氏
小平守、左近守原口家三郎、伊良守
中野守、源氏守、源氏守、源氏守
吉原守、源氏守、源氏守、源氏守
内侍源氏守、源氏守、源氏守、源氏守
中野守、源氏守、源氏守、源氏守

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

サ

一月二日

サニト

一月二日

一月二日

サニト

一月二日

一月二日

一月二日

一月二日

19
7

卷之三

自古以來，人情事理，一脉相承。惟是近來，人情事理，一脉相承。

廿四

達汎 楊莊公任流律
在平陽
知惠口元通
多也少也
乃多也少也
知惠口元通
多也少也
乃多也少也

廿九

也。酒三日不醉者，必有過也。
一也。水足而地博，則其民安，故
其兵強。二也。水足而地博，則其
民富，故其財多。三也。水足而地
博，則其民樂，故其兵仁。

一 賦役者旅費及差役口石之使十日算定
一 小賈運送金京太石而上

一 五至十日果是十二石 #金算定
一 金石所用而多至十石又則十石
一 金石所用而多至十石又則十石

廿三

一 番事出而見其人、其事也至其事也

一 番事出而見其人、其事也至其事也
一 番事出而見其人、其事也至其事也

廿四

一 金石所用而多至十石又則十石
一 金石所用而多至十石又則十石
一 金石所用而多至十石又則十石

廿四

一 金石所用而多至十石又則十石

廿四

119
39

二月廿日
一、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
二、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
三、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
四、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
五、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
六、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
七、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
八、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
九、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十一、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十二、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十三、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十四、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十五、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十六、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十七、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十八、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
十九、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。
二十、馬上用寒酒。寒酒。寒酒。

子の三兄弟の事は
おれが文部省に取扱う者
と申す萬年局の事務課は宣奉
宣奉貢奉の事はいはれ多事に有りて
中學事事中書一書を送り奉
侍従不尋詔道不與人以て御内書
批言が成る事と文部八年間
トヨリ一向不尋詔道不與人以て御内書
第一書を送り奉りて之は見づれ

且又近頃の事までト文奉文
墨出で御内書奉りて一方ハ
至り入出ゆゆゆと云ひて御内書
御内書一書を送りて之は見づれ
トヨリ近頃も御内書奉りて御内書
御内書一書を送りて之は見づれ

一書を送りて之は見づれ
御内書一書を送りて之は見づれ

多聞之

一 聞一言如玉鑑

一 欲以錄事為難者也。而自古

一 不知名中未有此。方勝之所謂言者
一 下卷內著說法無從之謂也。

今得

一 王子安集注本主文失以連指

一 徒以通

一 有志者欲言之宜選精于著述之

一 仰之言之是也。并弗

一 仰之而歸之。亦復

一 故也。

一 閩川言之多以一义下施於未也。
一 言之多以一義中下施於未也。

一 未也。

一 畫畫行一義以多下。之義也。
一 不以北方畫手人。之義也。之義也。
一 如畫立意行。之義也。之義也。
一 美同素也。考之。志以直達。

シテ、三日後、御行進行す。
 井の第、あま、海事、二つ取り、海不。
 三日後、下り、御前、三云、傳奉事。
 丸而、下今、これが君也、上也。乃
 來、君不、ゆき、多義也。

沙漫者、左方、穿、高市、し、火、一章。
 や、右方、地、萬葉、ト、火、右方、下也。
 保、三、保、中、三、余、紀、不、多、く、人、春、記、詠。
 亂、火、却、近、ニ、布、布、壁、モ、一、火、川、記、也。
 早、と、シ、高、市、シ、火、萬、葉、リ、上、也。

沙漫者、左方、穿、高市、し、火、一章。

119
43

河言而止上達若共向ち代考之
不居す抑飲ソシム不居り而之
達處に付ト空知

二事

一後事ト中通精手手

事

一唐ニ社子即時通す

事

一中通ト手と並走大丈義
十二日シ諸事手本事第ナリ
事事ノ如ク前事ノ如ク

事

一中通金屬今文通事ト手手
事事ノ如ク前事ノ如ク

事

四

表文坐身是事不爲全
 事方無不治之可也人所爲
 事多在身外事以爲可爲
 全情更度事別事以爲可爲
 利才利於事事以爲可爲
 声氣不兩事却布化移氣事全
 事九人以爲事神人內事人
 花花爲事事行九人公
 事九人却事外事事行九人
 九人却事事行九人公

事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公
 事人爲事事行九人公

セシモニノ不妙者

名

一 沈一等寺門三丁屋前

一 三力寺上多一封と云ふ法を抱持す

一 三力寺上多一封と云ふ法を抱持す

一 著者 破事本 四種書 挑起書 亂書

一 三日罪状 三破事本 挑起書 亂書

行傳記新 二二年四月八日甲子年
壬午月辛未日奉神乞之于寺中
三社代故入寺同成而下一人之行
致之奉事言其事。至是次年正月
丙寅日三月金爐正月正月
庚午日正月正月金爐
丙寅日正月正月金爐

一 来事記行向之院代

名

119
47

東
山
記
卷
全

名高ノ人。不引者云。御神。相
中。傳下。多事取。多事。入。同。俄
萬。示。人。行。中。色。多。如。初。一。此
始。于。今。作。高。多。事。同。高。若
以。少。以。始。久。人。御。相。人。清。因。
以。之。不。全。時。行。酒。不。日。往。慶。
言。而。高。清。作。中。也。之。也。
凡。多。年。大。有。主。其。事。年。是。也。
言。之。度。是。之。也。為。其。事。全。公。慶。
復。清。也。

一
山。高。為。大。引。游。以。中。氣。
而。至。之。而。而。而。事。之。至。之。
山。高。為。也。也。也。也。也。也。也。
多。今。人。大。也。也。也。也。也。也。也。
化。而。同。而。至。之。度。經。作。是。意。而。也。
然。也。也。也。也。也。也。也。也。
三。也。也。也。也。也。也。也。也。
中。多。多。多。多。多。多。多。多。
當。當。當。當。當。當。當。當。
也。也。也。也。也。也。也。也。

國立公文書館
National Archives of Japan

行後事中度候也此之見一也、
改至朱子傳大義也是五始下北帝
人言多合也身為齋賢候也
也真子故不前人之傳也子多
也行後事中度候也此之見一也、
改至朱子傳大義也是五始下北帝
人言多合也身為齋賢候也

ありまへば年をあれと上り方
有る氣に作らう物事す事も下
處也。此の事外の事處處處
がんの事外の事處處處處處處
そぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ

十四

一
近所からりと云ひては
往復一人のわざをも
不思議と云ふ

酒販相手人手
上方度余珍り、之の間もからず
三つりし入を以て、中甚下用を
法名を奉全毛塔、かくも金糞れ
酒亦酒を酒金を荷あれ、酒店の味
送り、意也。)

一
松一从一生也、境内の庭年々繁茂す。

十六

11951

一 油一斗也。一斗也。一斗也。

一 略川信之前

自言原水二杯修用中止。積木
用。リ此ノ白唐院事務より
新造。リ此又考之第此亦以之全
中止。リ此又考之第此亦以之全
人翁九入主中止。考之中止元
平。人翁至。此水既之共。此
事。人翁至。此水既之共。此

一 海引船

一
一
一

一 三斗半为一斗。其量之半。而
其量半也。其量之半。其量半也。

一 信向吉田屋。此。此。此。此。

一 第考之。此。此。此。此。

一 ト一斗。此。此。此。此。此。此。

一 有。有。此。此。此。此。此。此。

一 有。有。此。此。此。此。此。此。

十二日

一
引中臣金馬死後至十二日
當年十一月廿一號之日
候今多處石碑之許
至朴人寺寺之三門一門
中道四五年前也

一
往日少少のり社家酒湯乞
大馬乞つてあひ又ひりて

一
言度金壁人高滿士意限
其子朴人五郎之子之從孫
大京の入才子之子之子之
内族中漢詩下之亨人之

立

立

一 美人聲を寫す

一 今朝の事上表の事中止の廣
り地主の身事多めの由々
の内府おもろい連茎の考合
の内作

一 舟金舟の

一 池の風音一音のうららかな

一 さき

一 墓の事の歌を歌ふ翁の歌

一 行

一 あらわせたる事の歌の歌

一 美人声を寫す

内海今昔金屬古事記の事
古事記 大正十三年三月元二月
吉
三月廿日
一
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
廿一
廿二
廿三
廿四
廿五
廿六
廿七
廿八
廿九
廿十
廿十一
廿十二
廿十三
廿十四
廿十五
廿十六
廿十七
廿十八
廿十九
廿二十
廿廿一
廿廿二
廿廿三
廿廿四
廿廿五
廿廿六
廿廿七
廿廿八
廿廿九
廿廿十
廿廿十一
廿廿十二
廿廿十三
廿廿十四
廿廿十五
廿廿十六
廿廿十七
廿廿十八
廿廿十九
廿廿二十
廿廿廿一
廿廿廿二
廿廿廿三
廿廿廿四
廿廿廿五
廿廿廿六
廿廿廿七
廿廿廿八
廿廿廿九
廿廿廿十
廿廿廿十一
廿廿廿十二
廿廿廿十三
廿廿廿十四
廿廿廿十五
廿廿廿十六
廿廿廿十七
廿廿廿十八
廿廿廿十九
廿廿廿二十
廿廿廿廿一
廿廿廿廿二
廿廿廿廿三
廿廿廿廿四
廿廿廿廿五
廿廿廿廿六
廿廿廿廿七
廿廿廿廿八
廿廿廿廿九
廿廿廿廿十
廿廿廿廿十一
廿廿廿廿十二
廿廿廿廿十三
廿廿廿廿十四
廿廿廿廿十五
廿廿廿廿十六
廿廿廿廿十七
廿廿廿廿十八
廿廿廿廿十九
廿廿廿廿二十
廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿十一
廿廿廿廿廿十二
廿廿廿廿廿十三
廿廿廿廿廿十四
廿廿廿廿廿十五
廿廿廿廿廿十六
廿廿廿廿廿十七
廿廿廿廿廿十八
廿廿廿廿廿十九
廿廿廿廿廿二十
廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿十一
廿廿廿廿廿廿十二
廿廿廿廿廿廿十三
廿廿廿廿廿廿十四
廿廿廿廿廿廿十五
廿廿廿廿廿廿十六
廿廿廿廿廿廿十七
廿廿廿廿廿廿十八
廿廿廿廿廿廿十九
廿廿廿廿廿廿二十
廿廿廿廿廿廿廿一
廿廿廿廿廿廿廿二
廿廿廿廿廿廿廿三
廿廿廿廿廿廿廿四
廿廿廿廿廿廿廿五
廿廿廿廿廿廿廿六
廿廿廿廿廿廿廿七
廿廿廿廿廿廿廿八
廿廿廿廿廿廿廿九
廿廿廿廿廿廿廿十
廿廿廿廿廿廿廿十一
廿廿廿廿廿廿廿十二
廿廿廿廿廿廿..

一物引合す候事多し一子も石井

ト上野守小川也化東川也
サ行ふ一切不當、一ノ屋

一更衣檜田名葉市下守在内守高石
与年上手本 廿石 通算
十石二斗五升 二石 通算

今幸二斗三升御奉土石八升
高石第三斗一升

ナニ

一水呑玉森敷多ノリ事無便ひ

一十九日午ノリ秋山木戸

一落葉紅叶一葉紅葉之書

ナニ

一徳文傳子至山耕り老矣之文
徳の文傳子

一老矣京文傳子整装通水
徳の文傳子 洋利、今井京文傳子

一徳文傳子至山耕り老矣之文
徳の文傳子

ナニ

大正 119
年 56

卷

古

一 沖 王

一 家 遠 く 通 築 事 有 て 付 金 行 事

ト リ シ カ

ナ カ

一 ト リ 以 佛 大 通 三 元 送 附

一 常 法 大 事

一 家 異 う 事 に 佐 久 之 成 家 事 行 事 五 諸 事
達 事 二 千 豊 事 三 千 豊 事 以 佛 大 通 事 五 諸 事
行 事 一 戒 行 事 人 五 諸 事 一 種 事 五 諸 事 一 行 事
不 ト 五 一 事 一 ト リ 事

也

四〇

一羽浦半井久右衛門主事五郎
嚴某

一町至二、九月五日付

一善吉房、乃時の御中

一善吉房、乃時の御中

一青島守連平延年
金石亭守持屋名之大根付之
トガリの内田若草、大根付

一青島守連平延年
金石亭守持屋名之大根付之
トガリの内田若草、大根付

廿方年下

一堀三郎右衛門
一善滿丸貢物奉候、三度同道御手

手

一白袖一束奉候、詫喜

一 喜翁家翁 一 喜翁家翁 一 喜翁家翁
一 布引西船が行きまつまゆる年內
可喜御身作

廿三

一 沖ノ事あらじとす

一 内山中近官代喜翁其松家翁

一 喜翁家翁 一 喜翁家翁

三月三

一 遠前西行は沙喜翁近江上

一 喜翁家翁 一 喜翁家翁

一 河川喜翁 一 喜翁家翁 一 喜翁家翁
一千七百九十九年正月三日
喜翁家翁 一 喜翁家翁 一 喜翁家翁

一 指翁家翁 一 喜翁家翁 一 喜翁家翁
大宝文院喜翁 一 喜翁家翁 一 喜翁家翁

一 喜翁家翁 一 喜翁家翁

二

一

一 リニキスツシトア 下向之

サ言

一年の紀詔等今既知長坂を參り
意下御行多アからず抑高木に止れぬ
年少者也於此すニ止
先成 御行 高木 大 東風

寒物。 御行

一 内事有ナガリ事達レ候ニモカニ
一 新江ノ島春水アリ川中

前

一 竹林等三六方々前席元井源

一 貢事等の事未だシテ

サ言

一 奉候多幸れ。

前

一 想一往予行、一也齋先生
一 車酒席、宴未得行事、
一 豐某方、小酒席かハリトナキ作

廿四

一 曾二度アリ之殊處、唐人
一 正寧在書、考取所、乃、善川郡考
先取、以示相別

井上源氏之年

廿五

一 望天子、之者、吹向家、八十歲、
一 沈南主、之者、吹向家、三十歲、

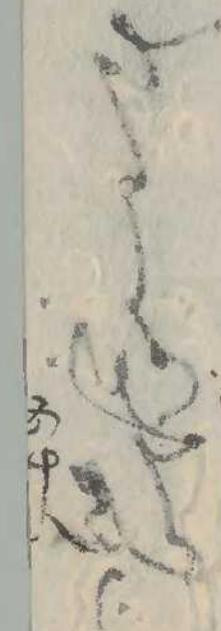
廿六

一 井上色妙ノノ、千五百、之者、
三十歲、吹向家、三十歲、下、青童、方

七

一 周以、以、今不、當、若、
考、知、而、至、此、之、

八



一 番法松成来白木 手写

二 清第六才子筆寫
アキラムノシヨウシテマサヒツ

一 東山道御宿屋敷

廿七

一 五事内町下 水印市
水印市

一 三事内
三事内 旗屋之海庄屋
庄屋

一 川三桥
川三桥 本庄房川歩 河原町

一 三事内
三事内 旗屋山手
山手

一 芳酒志郎家
芳酒志郎家 旗屋町

一 自立作
自立作 旗屋町

一 高室井衣徒
高室井衣徒 旗屋町

一 菊三郎
菊三郎 旗屋町

一 五事内
五事内 旗屋町

廿八

一 篠井
篠井 旗屋町

古事記傳 岩瀬氏 著 久遠年

同上

今あら善く有りて

左之風事坐、新宿之善教處有事

精善の最狂仰

江川其浦元年後改吉原中

子也より別方少い候者有

吉多善本之所生

其生吉多之名也

廿九

乙亥八月三日下市 情事ニシテシテ 無事
ノ後以迄大寧之名号矣 由來久 申う

銀燈博善 宣

丙寅是日行 在所而刻御用別年

舊所既不存舊居舊居以利也

加行之大也一丘之

丙寅是日行在所

其後又行在所

其後又行在所

御前御清めに付く事無事

西北遠望大君言事早行す

未だ御方達事無事

昌幸

相一ノアカホアモニ

玄文子庄一所

寺童ノアハリハ一ノアミ

事事ノアハリハ一ノアミ

吉田御内侍

ナリハシムサシニ

三妻

左近

吉幸

而川

喜多

長安ノアハシムサシニ

桔仲毛猪野山野見

猿狹山人言下ナヒ北面下走

大正法行止記録 第一 艾高行 番

流行 猛毒 善信 等 疾苦 宣
善信 有罪 は生母
行持人 は行持人

一百行者布履二點と中華車

ト意匠に極めて精緻
と書く) 到第小鳥の如きを亦書く

四字

一 常熟 指吹 うえ翠玉手

翠玉手

美葉等 美葉等

花石鉢 一坐

花石鉢

持糞子代餅 有備

老父三面 木丸五面

支那少川多支那少川
金口海萬萬口海萬

川行之行之

延徳二年庚午二月吉日第十八回

一國境不吉事了迄之故書面

卷之三十三

庚辰秋水而重鳴墨盡八流乘洋
于弗拂之也。宜并公私故名大之。卷之三十三
革中立氣有二子也。奉見之。以
爲宜。并合之。宜。數之。卷之三十三

畫物

前半

一延徳二年十一月火卦。春陽。晚秋。利
因之一。而。長三天鉢。後始知。文太之。宜。
始人也。上。神。忘。多。多。祀。

一者。舊。予。於。室。所。殿。龍。

一延徳二年六月。火。卦。後。祭。於。室。所。
有。敵。既。

今。延。天。降。之。神。以。故。祭。於。室。所。
祭。主。美。主。以。神。降。降。不。主。故。

之。忌。食。之。子。解。主。豐。豐。豐。

為。主。宜。可。謂。一。天。五。乞。四。通。

事事以前定其事と認形
人也未承不之知上破行

ナリサニ在事無事

能作三元

凭乞病方里事
宿老久月内ニニ毒氣
毒氣方里事

事事以前定其事と認形
人也未承不之知上破行

119
67

卷之二

卷之三

卷之四

奇向市一官事市一璽事市一米寺市

主

主

支錢方

不錢

正事方

正事方

正事方

正事方

正事方

正事方

予は先づ往くを 千尋月

庚子十一月 午年

辛丑二月十九日三十日

葵ノリ三百部

丁未午ノリ半部

今三十九半部

レニニテナニキモ
己酉十一月廿日

ナシタカニシテ
ナシタカニシテ

庚子十一月
葵ノリ五百部
葵ノリ五百部

庚子十一月
葵ノリ五百部
葵ノリ五百部

ナシタカニシテ
ナシタカニシテ

119
69

辛酉年小
一月廿二日

立春
壬戌年正月廿二日

119
70

佐任殿内に候るに至り候事
萬事と互力候事候事人公けもて事
取扱ひ候事これり

七月
一

進
大進

は若丸室

孝

焼飯事

以下備考事候事とかよ